

平成29年度 学校評価計画書

石川県立小松工業高等学校

重点目標	具体的取組	担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	(評価方法)
1	主體的・対話的で深い学びにつながる授業の実践を通して、基礎的・基本的な知識と技能の定着を図るとともに、問題発見力・問題解決力・創造力等の育成を図る。	教務課 各教科	授業規律の確保と生徒の学習意欲の向上、基礎学力の定着が課題となっている。生徒の実態に鑑み、意欲を喚起し、能動的に取り組む授業設計の工夫と授業力の向上が求められている。	<努力指標> 相互の授業参観を行い、積極的にアドバイスを行うことにより、授業力の改善を行う。	年間5回以上教師相互の授業参観を行うとともに、授業改善に努めた教員が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	C、Dの場合は検討を要する。前期、後期にアンケート実施。	教職員アンケート (自己評価) 教務課にて集計
				<努力指標> ALやPBLを取り入れ、生徒が主体的・能動的に学べる授業に取り組む。	ALやPBLを取り入れ授業改善に取り組んだ先生の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C、Dの場合は検討を要する。前期、後期に授業アンケート実施。	教職員アンケート (自己評価) 教務課にて集計
				<満足度指標> 各教科の指導により、専門科目の知識が身についたと感じる。	授業により、専門科目の知識が身につけ、課題を発見する力、解決する力がついたと感じている生徒が、 A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	C、Dの場合は検討を要する。前期、後期に授業アンケート実施。	生徒授業アンケート
2	ものづくりによる実践的な技術・技能の習得や、デュアルシステム等の体験的学習に積極的に取り組み、地域に貢献できる人材の育成と個々の生徒の適性に合った進路の実現を図る。	学年会 各学科 部活動	目標とする資格・検定指導を戦略的に推進する必要がある。また、各種コンテストに積極的に参加し同年代の同じ目的をもつ集団の中で切磋琢磨しながら成果を上げたい。	<成果指標> 資格・検定指導を推進し、ジュニアマイスターの認定者を多く輩出する。	ジュニアマイスターシルバー以上認定者の人数が、 A 60名以上である。 B 50名以上である。 C 40名以上である。 D 40名未満である。	C、Dの場合は検討を要する。後期に実施。	教務課にて集計
				<満足度指標> 各教科の指導により、専門科目の技能が身についたと感じる。	授業により、専門科目の技能が身につけ、課題を発見する力、解決する力がついたと感じている生徒が、 A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	C、Dの場合は検討を要する。前期、後期に授業アンケート実施。	生徒授業アンケート
				<成果指標> ものづくり大会やロボットコンテスト等のコンテストにおいて上位進出を目指す。	今年度のものづくり大会やロボットコンテスト等のコンテストにおいて A 全国大会で上位に入賞することができた。 B 全国大会に出場することができた。 C 北信越大会に出場することができた。 D 県大会出場にとどまった。	B以上を目指す。後期に実績報告後期に実施。	
	② 進路実現を確実なものとするため、インターンシップ、デュアルシステム等の体験的学習を全科積極的に取り組むとともに、学習の習慣化を図り、基礎学力の充実・定着を図る。	教務課 進路指導課 学年会 各教科	部活動に熱心に取り組んでいるが、学習時間の確保が困難な一面もある。部活動との両立が重要課題である。	<努力指標> 学習と部活動の両立を目指し、気概と努力が大切であると実感させる。	学習と部活動を両立できたと答える生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	C、Dの場合は検討を要する。前期、後期にアンケート実施。ただし、3年生においては部活動終了期間までとする。	生徒アンケート

平成29年度 学校評価計画書

石川県立小松工業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	(評価方法)
3 「学警連携」「部活動の活性化」「教員の組織連携強化」「校内研修の充実」等を通して、生徒の規範意識やマナーの醸成を図り、社会人として必要な人間力を備えた人材の育成を図る。	① 生徒が積極的に部活動に参加し、県内外で成果をあげること、周囲の期待に応えられるよう、部活動の活性化に取り組む。	生徒会課 部活動 学年会	部活動の加入率、継続率も向上してきた。学校の特色としての部活動の一層の活性化を図りたいと考えている。	<成果指標> 3年間継続して、部活動に参加する。	3年間部活動に参加していた生徒が、 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C、Dの場合には、改善策を検討する。 県総体時に、3年間部活動に参加した3年生の割合を調査する。	県総体時の調査 総体終了時に生徒会で集計。
				<成果指標> 県内での上位進出の状況を見る。	県総体の成績で団体、個人ベスト4以上の種目が A 10種目以上あった B 7～9種目であった。 C 4～6種目であった。 D 4種目未満であった。	B段階を達成できない場合、後期の新人大会に向けて強化を図る。	総体の成績
	② 品位ある服装、爽やかな挨拶、時間厳守など、進路実現に直結する生活姿勢の改善に生徒自らが意識して取り組むよう指導する。また、学警連携を密にするとともに、学年集会やおもてなし講話、警察署による講話等を通して規範意識の確立に取り組む。	生徒指導課 生徒会課 学年会 全職員	学校長の指導の下、生徒指導課をはじめ教職員の協力により、生徒に寄り添う指導効果が実り、特別指導件数も減少してきた。また、生徒の規範意識も向上してきた。今後も、各種関係機関との連携を図りながら規範意識の高揚を図りたいと考えている。	<成果指標> 遅刻件数の前年度比から判断する。	前年度と比較し、遅刻件数が A 25%以上減少した。 B 15～25%減少した。 C 5～15%減少した。 D 5%未満であった。	C以下の場合には改善策を検討する。 前期、後期にアンケート実施	前年度比 生徒指導課で集計
				<成果指標> 自転車交通違反指導件数から判断する。	前年度と比較し、違反件数が A 30%以上減少した。 B 20～29%減少した。 C 10～19%減少した。 D 10%未満であった。	C、Dの場合は次年度の改善策を検討する。 前期、後期にアンケート実施	前年度比 生徒指導課で集計
				<満足度指標> 生徒の自己評価から判断する。	自ら進んで挨拶できたと答える生徒が、 A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	C、Dの場合は次年度の改善策を検討する。 前期、後期にアンケート実施	生徒アンケート